

健康医療市民会議（KISK）会報

2010年4月号



3月号で三寒四温など書いた後に雪が降った日もありましたが、もう4月、暖かくなってきましたね。さて、今回は藤の花をシンボルとしましたが、藤棚は、昔は学校など結構多くの場所にあったような気がします。今はどうなんでしょうか。東京にも藤の名所は亀戸天神、神代植物園など結構たくさんあります。いずれも4月下旬からが見ごろのようです。

定例会・講演は健診について

詳細 P. 2、3

定例会は、3年目の初回、第25回となります。春は健康診断の季節でもありますが、今回の講演は、内視鏡検査の第一人者で、聖路加国際病院消化器センター内視鏡室長の増田勝紀先生の「意味ある健康診断のすすめ」と題したお話です。予防医療の第一線で活躍される先生から、健康診断をするのによいアドバイスをしてもらいます。また、小山悠子先生のドクターのワンポイント・レッスンはシリーズの第2回として「歯科における統合医療とは」と題したお話を聞きます。また、3月の定例会で予定し、時間の都合で出来なかった、会員の黒川様に簡単に過去の講演を復習してもらおうコーナー「私の選んだ一言」の前編があります。

3月定例会の報告

詳細 P. 4、5

3月の定例会はベストセラー「脳内革命」の著者、春山茂雄先生の講演を中心に小山先生のワンポイント・レッスンの初回「よく噛めば認知症もメタボも予防できる！」がありました。

その他

P. 6～8

会員の中にはワインに詳しい方も多いでしょうが、今回、赤ワインに含まれるポリフェノールの一種「レスベラトロール」という成分の健康に対する効用に注目してみました。また、鳩山総理の一言で大きな前進が見られるかも知れない統合医療について期待と危惧の思いもメモしておきました。「医療は公共財かビジネスか」のコーナーは、「命だけは平等」というフィロソフィーを前面に出しながらも、まさにビジネスの手法で成長する徳州会について見てみました。

健康医療市民会議（KISK）

代表 梶原 拓

〒105-0013 東京都港区浜松町1-12-2 東武ハイライン大門203

TEL: 03(5403)7723 FAX: 03(5403)7724 E-Mail: Info@kisk.jp URL: <http://www.kisk.jp>

お知らせ：会報は当会ホームページ <http://www.kisk.jp> の「会報」ボタンからダウンロードできます。

第25回（4月）定例会のご案内

日 時：平成22年（2010年）4月20日（火）16時（午後4時）～18時

場 所：日本財団2F会議室（下に案内図）

参加費：会員¥2,000、同伴者・ビジター¥3,000

場所注意！

予 定：16:00～16:20 代表中間報告

16:20～17:10 講演「意味ある健康診断のすすめ」増田勝紀先生

17:15～17:45 ワンポイント・レッスン「歯科と統合医療」シリーズ2
「歯科における統合医療とは」小山悠子先生

17:45～18:00 過去2年の講演復習「私の選んだ一言」前編 会員・黒川弘様



<会場案内>

日本財団：港区赤坂1-2-2

地下鉄の虎ノ門、溜池山王、国会議事堂前等が便利です。駐車場はありません。1Fエレベータ前で受付を済ませて2Fに上がり、案内表示をご覧ください。（前回2月と会議室が異なる可能性があります。）

講演「意味ある健康診断のすすめ」

聖路加国際病院消化器センター内視鏡室長 増田勝紀先生

会員の皆様は毎年何らかの健康診断は受けておられると思いますが、漠然と定期的に人間ドックなり、健康診断を受けておられるのではないのでしょうか。先生の講演を聞かれると、恐らく、健康診断の奥深さを感じられることと思います。先生は、ご自身では内視鏡による覗き！一筋35年とおっしゃいますが、日本における内視鏡検査・治療の第一人者で、これまで数多くの検査による早期発見のみならず、内視鏡による初期のがんの治療に当たられ、多くの生命を救って来られています。先生によれば、これからは治療だけでなく健康診断も「テーラーメイド」の時代、検査に携わる熟練した医師とか最新の検診機器等に限りがある中、過去の自分の検診データ、病歴等に基づき、自分に最適な健康診断を、担当の医師と一緒に見つけて実行されるのがいいのではないかと提案されています。最近、某著名人も先生の発見による咽頭がんの宣言をされていたと聞いていますが、当会会員の宮本悠美子様、高賀登様も以前先生から「早期発見」の恩恵を受けており、その宮本様のご紹介を受けて、ご多忙中のところ、講演を引き受けて頂きました。

<増田勝紀先生略歴> 昭和54年東京慈恵会医科大学大学院卒、第2外科教室にて消化器外科担当、昭和58年東京慈恵会医科大学第2外科教室助手、平成元年東京慈恵会医科大学内視鏡科講師、平成12年同大学附属病院内視鏡部診療部長、平成14年聖路加国際病院予防医療センター内視鏡科医長、聖路加国際病院消化器センター内視鏡室長 兼務。日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医、日本外科学会認定専門医日本消化器外科学会認定医、日本総合健診医学会評議員、日本レーザー医学会理事。日本外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本総合健診医学会等、参加学会多数。

第25回(4月)定例会のご案内(続)

ドクターのワンポイント・レッスン「歯科と統合医療」 シリーズ2

「歯科における統合医療とは」

明徳会サンデンタルクリニック院長・医学博士 小山悠子先生

小山先生のシリーズの2回目です。鳩山総理の肝いりで統合医療も表舞台に出て、保険適用も現実味を帯びてきましたが、もちろん明徳会は統合医療を積極的に取り入れている歯科医療法人の代表です。東洋医学に精通し、O-リングの認定医でもある先生より、歯科クリニックで実践されている統合医療とはどんなものか、具体的なお話が聞けると思います。

<小山悠子先生略歴>

東京都に生まれる。1977年、日本大学歯学部を卒業。医療法人社団明徳会福岡歯科に勤務。1982年、聖マリアンナ医科大学解剖学教室に入局。1989年、同大学より医学博士号を授与される。1987年より東京・新宿の医療法人社団明徳会福岡歯科サンデンタルクリニック院長。歯科医師。医学博士。日本歯科東洋医学会認定医。バイディジタルO-リングテスト学会認定医。

<著書>「美顔術一口元から綺麗が始まる」その他。

過去2年の講演の復習 「私の選んだ一言」前編 会員：黒川 弘 様

3月の定例会で予定し、時間の都合で今回に伸ばした、過去の講演を簡単に振り返るコーナー前編です。黒川様から各先生の講演、レッスンの中から選んだ一言を紹介して頂きます。欠席された方、お忘れになった方、ぜひ復習してください。なお、講演して頂いた先生の診療を受けたい場合等のため、連絡先等を掲載したリストを当会HP (<http://www.kisk.jp>) に掲載していますのでご利用ください。

事務局からのお知らせ

<年会費納入に関して>

会員募集を開始して丁度2年となり、今回、募集開始当初に入会された多くの方に「年会費納入のお願い」を同封させて頂いております。該当される方は、振り込みまたは定例会受付にて納入頂くようお願い申し上げます。なお、年会費は、ご入会の月から1年間有効というルールで運営しており、会員により異なるタイミングで依頼書をお送りしています。

<事務所臨時休日>

勝手ながら、3月29日(月)から4月2日(金)までの1週間、健康医療市民会議事務局はお休みとなりますのでよろしくお願い申し上げます。FAX、留守電、Eメールでのご連絡は可能です。

第24回（3月）定例会の報告（メモ）

3月16日 南青山・国際医療福祉大学大学院

梶原代表の中間報告

3月の定例会は一昨年4月の第1回から数えて丸2年、その前の試行の5ヶ月を加えると2年5ヶ月の間、講師の先生を招いて勉強、情報の共有をしてきたこと、医療改革の面においても国会議員、医療の専門家とわれわれ市民代表が会合を重ねて総選挙のマニフェストに取り上げられる等の実績を積んできたことなどの報告がありました。またこの時間に健康医療市民会議信濃より諏訪神社の御柱祭の案内もありました。

「新脳内革命による健康法」 脳内革命著者医学博士予防医学研究所最高顧問 春山茂雄先生

梶原代表からベストセラー「脳内革命」の著者で自分も恵比寿のクリニックの直ぐ測定できる計測器で体内年齢は51歳とされたとの紹介で、若々しい春山先生の御講演が。疾病医学から予防医学（健康医学）へが大切。健康・介護予防・環境が重要。多額の国費の年金も健康あって意味が。厚生労働省やWHOの指導があるが、その基本の憲法25条は健康で文化的な最低限度の生活権に続き「国はすべての生活部面で社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上増進に努める」と規定し、医師法第一条は「医師は医療及び保健指導を掌り」公衆衛生の向上増進寄与と国民の健康な生活を確保する責務を規定し、医者職分は病気を診るのが半分、予防の保健指導が半分とする。企業も世の



のためにあり1マーケティング(顧客獲得)2技術水準3生産性の向上が大切。日々勉強しないと3年で技術水準は変わる。医療や健康の技術も同様。自分は東洋医学専門家の実家で小さい時から修行し、東大で西洋医学を学ぶ。アルツハイマーやガンの遺伝子等も研究。「医食同源」。現在パートナーの管理栄養士20人がクリニックに。航空医学では無重力は50倍のスピードで年を取る。一週間で一年分。宇宙飛行137日では20年。「重力」の素晴らしさ。健康は「筋力」、一日使わないと0.5%-1%落ちる。回復には一週間必要。脳内革命の本は600万部で独仏スペイン・ポルトガル語も出版。凄い反応があった。内臓脂肪と皮下脂肪がある。重力に逆らう生活でメタボ対策は大丈夫。筋肉・骨量・水分が大切。脂肪が溶ければ菌と戦う白血球やリンパ球が出て、活性酸素と戦う。若さは水分量。保湿が大切で水分少ないと老化。血流の最大の臓器は血管。人の毛細管は地球を2.5周の10万km。狭いや脆さは大変。血流は心臓一つで保つのではなく、心臓と筋肉(脚部)の二つで保つ。片足で長く立てれば大丈夫。心臓や心筋が弱いと脳に負担。10倍の酸素必要。脳スイッチオフなら老化のサイン、スイッチオンで殆どの遺伝子は脳細胞を生き返らす。メタボ対策は努力必要。人はズボラでサボり屋、好きなことはやる。規制や栄養学が大切。良い食事、蛋白質を沢山摂ること大切。りんごやバナナ。脳はわがままでブドウ糖しか使わない。足りないとグリコーゲンを分解して使い、水が抜ける。筋肉が落ちやつれてくる。素人のダイエットは反対にリバウンドして腹に油が貯まる。中性脂肪は燃えないが、脂肪酸は燃える。「加圧」すると2.5倍溶ける。ウォーキングで体形が変わる。脂肪分解酵素と加圧により成長ホルモン増加。成長ホルモンの年齢変化と加圧の効果のグラフのご説明。「夢の推進」が大切で、催眠術も効果。嫌なことと思えばすぐ悪化、楽しく考えると健康が良くなる。私は幸せと思うと睡眠波はα波が出て元気に。うつ病の人にも効果。自己睡眠でのストレスの解放。口で言葉にすると体が反応。成長ホルモンが少ないと、水分が

のためにあり1マーケティング(顧客獲得)2技術水準3生産性の向上が大切。日々勉強しないと3年で技術水準は変わる。医療や健康の技術も同様。自分は東洋医学専門家の実家で小さい時から修行し、東大で西洋医学を学ぶ。アルツハイマーやガンの遺伝子等も研究。「医食同源」。現在パートナーの管理栄養士20人がクリニックに。航空医学では無重力は50倍のスピードで年を取る。一週間で一年分。宇宙飛行137日では20年。「重力」の素晴らしさ。健康は「筋力」、一日使わないと0.5%-1%落ちる。回復には一週間必要。脳内革命の本は600万部で独仏スペイン・ポルトガル語も出版。凄い反応があった。内臓脂肪と皮下脂肪がある。重力に逆らう生活でメタボ対策は大丈夫。筋肉・骨量・水分が大切。脂肪が溶ければ菌と戦う白血球やリンパ球が出て、活性酸素と戦う。若さは水分量。保湿が大切で水分少ないと老化。血流の最大の臓器は血管。人の毛細管は地球を2.5周の10万km。狭いや脆さは大変。血流は心臓一つで保つのではなく、心臓と筋肉(脚部)の二つで保つ。片足で長く立てれば大丈夫。心臓や心筋が弱いと脳に負担。10倍の酸素必要。脳スイッチオフなら老化のサイン、スイッチオンで殆どの遺伝子は脳細胞を生き返らす。メタボ対策は努力必要。人はズボラでサボり屋、好きなことはやる。規制や栄養学が大切。良い食事、蛋白質を沢山摂ること大切。りんごやバナナ。脳はわがままでブドウ糖しか使わない。足りないとグリコーゲンを分解して使い、水が抜ける。筋肉が落ちやつれてくる。素人のダイエットは反対にリバウンドして腹に油が貯まる。中性脂肪は燃えないが、脂肪酸は燃える。「加圧」すると2.5倍溶ける。ウォーキングで体形が変わる。脂肪分解酵素と加圧により成長ホルモン増加。成長ホルモンの年齢変化と加圧の効果のグラフのご説明。「夢の推進」が大切で、催眠術も効果。嫌なことと思えばすぐ悪化、楽しく考えると健康が良くなる。私は幸せと思うと睡眠波はα波が出て元気に。うつ病の人にも効果。自己睡眠でのストレスの解放。口で言葉にすると体が反応。成長ホルモンが少ないと、水分が

第24回（3月）定例会の報告（メモ）（続）「新脳内革命による健康法」（続）

抜け、メタボ症、骨粗鬆症、ガン高位等に。成長ホルモンの血中濃度を測定し成長ホルモンを補給。重力や筋肉が大切で、加圧ベルトで100倍の効果がでる。「磁気」で不要の筋肉をこわすと必要な筋肉が再生する。時間だが「医療による健康づくりにシフトすべき」「病気で医者が儲かる・から・健康で医者が儲かる」社会にすべきだ。メタボからの健康には、1 筋肉を入れ替えてよい筋肉を増やす。2 油を減らす。手足の加圧ベルトや器具で5-10倍の油を取り筋力に換え若返る。3 体形が変わる。以上で話したいことの1/4で、機会があれば続きを。と。会場の質問に応じ、ベルトの効用、ミトコンドリアの電流の流れ、磁気利用の筋肉再生や30分のフィットネス継続法のお話。成長ホルモンがキーワードで楽しいで若返り、加圧して汗かいて若返る。と。エネルギーギッシュな70歳の若き講師に大きな拍手が続きました。＜語句註
脳内革命は絶版ですが、マイナス思考や強いストレスでの毒性分泌物・プラス思考や楽しい想いで元気分泌物の対比の話。右脳と左脳。腹式呼吸のα波。ストレッチ体操で活性酸素を出さず筋肉つける・脳内のよいホルモンがでる・脂肪を燃やす効果等の話題が満載でした。本年5月春山先生の新著「新脳内革命」発刊予定。期待しましょう。なお、春山先生は東京恵比寿に、ひとクラス上の健康を目指される方々への健康医療に関するサービスを提供する会員制クラブ「THE CLUB 22」を始められました。興味のある方は、03-5792-7770にご連絡ください。＞

2 ドクターのワンポイント・レッスン「歯科医療と統合医療シリーズ ①よく噛めばメタボも認知症も予防できる！」明徳会サンデンタルクリニック院長・医学博士小山悠子先生



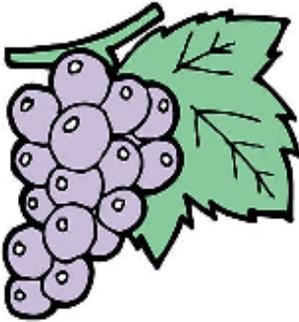
毎回司会でお世話になり、昨年も「若さと美しさの秘訣」の一端をお話いただいた小山先生のレッスンが始まりました。歯が全身に影響している。歯周病は口にばい菌が溜まるが、歯がグラついたり腫れても末期でないと判かりにくい。口の中の綺麗さ、ケアが大切。歯周病の病原菌は内毒素と外毒素あるが、細菌が入り、肺炎、胃潰瘍、糖尿病、骨粗鬆症、皮膚病、心臓病、早期産等に影響。妊婦の口の

ばい菌の毒素が赤ちゃんの口や体にまわることもあり注意。赤ちゃんが母親のオッパイを懸命に吸うと骨と筋肉が強くなる。鼻呼吸と口で吸うことが大切。物覚えもよくなる。哺乳瓶で簡単に呑むのでは差が出る。また、子供が、よく噛むと頭や体全体の運動になる。筋肉をつくり、発育がよい。母親が固い和食を与え一回20回以上、右10回左10回全体30回と噛む子供は頭もよい。聴力もよい。成績の悪い子には大臼歯が1本以上ない子が多い。噛まないで学習能力が悪くなる。体格も貧弱で老化。

よく噛めば野菜果物もその繊維質が中性脂肪を吸収。食べ物は一口30回で、野菜であっても噛むこと大切。またよく噛めばガンも治る。発ガン物質に対する唾液の清浄効果はすごい。歯が悪いと呆けが早いし、顔も衰える。入れ歯の場合にも、噛めば活力出て、骨も頭の骨も重くなる。また噛めば五感を刺激し、心と言葉で美味しいと思えば脳刺激で健康。味や噛む音や色や香を嗅ぎ、舌触りで五感を刺激し脳も活性化。よく噛むことでアミラーゼで分解して甘さや匂いが出てくる。「人間は歯をもって命とするなり。歯はよわい（齢）と読むなり（300年前の貝原益軒の日本歳時記）」。よく噛めば咀嚼筋を動かし、脳を刺激。唾液も出る、顔も動かす。寝かされて生きても長寿国とはいえない。ガムを噛むのは若人も老人にも刺激がありよい。ただし糖分のあるものは駄目。前頭前野が活性化。風船もよい。指しゃぶりは良くない。皆様、歯周病をなくしましょう。元気一杯で楽しいお話に会場の拍手喝采が続きました。

赤ワインの効用確認

本名「レスベラトロール」はいいことづくめ



ワイン好きの人たちにとって産地やグレードを当てるのはとても楽しいことのようにですが、十数年前に赤ワインに含まれるポリフェノールの抗酸化作用による健康増進効果が注目されて以来、健康のためと称して愛飲されている方も多いでしょう。ポリフェノールとは、フラボノール、イソフラボン、タンニン、カテキンなど植物が光合成を行うときにできる物質の総称なので、ここではもうひとつ詳しい区分、その一つであるレスベラトロールという物質に注目し、あちこちのホームページから共通項を拾ってみました。

レスベラトロールは、ブドウの皮や赤ワインに含まれる成分で、天然の抗酸化物質です。試験管内や動物実験の段階ですが、レスベラトロールは、血小板のねばつきを軽減し、通りやすく弾力のある血管を保つのに役立つことが分かっているということです。また、実験室で行なわれた研究では、レスベラトロールは、動物（マウス）においてがんの進行を妨げることが報告されています。1997年にイギリス「サイエンス」誌で抗がん作用が報告されて以降、抗がん・抗痴呆症などの観点で多くの研究成果が得られているようです。最近では、旭川医科大学で、眼病予防のデータも発表されているとのこと。



もともと赤ワインが健康に関連して注目された理由は、比較的高脂肪、高カロリー食を摂るにもかかわらず、フランス人の心臓血管病の発生率が低い（実際、アメリカ人の1/3だとか）のはなぜだろうか、という、いわゆるフレンチパラドックスを解明することだったようです。確かにフランスは赤ワイン消費世界No.1の国でありながら、アルコール過剰摂取の弊害も乗り越えて、寿命も欧米トップクラスというのですから研究価値はありますね。要は、お酒を飲んで健康に良ければこんな良いことはないということで研究も進んでいるのでしょう。

さて、もう一度レスベラトロールの話に戻ります。近年の研究ではレスベラトロールには直接的に寿命を延ばす効果があるという報告も米ハーバード大医学部のチームから出されました。ちょっと難しい話になりますが、細胞の染色体末端にあって寿命に極めて関係の深いテロメアDNAを守ることで寿命を延ばすというものです。心臓病にがん、さらに寿命そのものと、何か、いいことづくめのように思われますが、前述の実験でマウスに投与されたレスベラトロールの量は、特にがんに対する効果に関しては、通常のワインやブドウの摂取では考えられないほど多量であるし、アルコールの飲みすぎはもちろん肝臓疾患を招きます。心臓病予防に関しても、そのためにワインを飲むことは医者も勧めていないようなので、やはり、節度をわきまえて飲む姿勢が大切でしょう。また、近年はレスベラトロールの補助食品もあるようですが、これもとりあえずは節度を守って摂取することに心がけましょう。

統合医療推進方針に思う

期待は大きいがどこまで行けるか

1月29日の鳩山総理の所信表明に始まり、2月5日には厚労省にプロジェクトチームも発足した統合医療推進の方針。当会は、基本的に、患者が「治る」ことが大切であり、医療がどの国や地域から出たものであろうと、伝統的なものでも最新のものでも何でも取り入れようという大方針のもと、定例会では統合医療については何度も取り上げ、日本統合医療学会の渥美和彦先生を初め多くの先生の講演を実施してきましたが、統合医療推進の動きは大歓迎の方向であることは間違いない。日本の大学で最初に統合医療の実践施設をつくった東京女子医大の川嶋明先生は、以前講演して頂いた際、統合医療のもついくつかの問題、たとえば、定義がない、実証の全体表示がない、評価機関がない、不適切なものもある、交流の場がないことなどを指摘された。範囲の問題もあり、正確には詳細は不明だが、ある調査機関によると統合医療は2.5～3兆円（もっと多い推定をしている機関もある）という市場規模と見られ、われわれの税金や保険料がどこに使われるのかは気になるところで、前述のプロジェクトチームには、正確な実態を把握して頂き、効果を上げている医療といかがわしい医療の峻別が大仕事であることは言うまでもない。また、現在のところ、健康診断には保険が適用されていないことを考えると、どこまでが診療で、どこまでが健康維持あるいは病気予防という区分の問題も、治療より予防を重視することが多い統合医療の場合は特に難しい。また、膨大なお金がかかる臨床試験などの評価システムを、統合医療にどう適用するかといった非常に大きな問題も顕現する可能性もある。こんなに問題を見ると、元に戻ったり、停滞するのではといった危惧も生まれる。ありきたりの心配をしてしまったが、重要なことは、あくまで患者本位であること。西洋、東洋、漢方、伝統医療などといった医療の系統にこだわらない患者・市民本位の医療支援体制への前進が見られるものと期待したい。

さて、話題の統合医療について、あなたの基礎知識はどの程度でしょうか。1～4の記述は最近よく見かける統合医療に関するカタカナ言葉の起源に関する説明です。□□□□のどれの説明でしょうか。答えは、参加申込用紙にあります。

1. インドの伝統的な学問で5000年の歴史があり、医療のみならず、生命科学や哲学の概念も含む。この中にも多くの治療法があるが基本的には予防医学を重視している。
2. ドイツのハーネマンさんという医師が19世紀初めに考案した「類似したものは類似したものを治す」という類似の法則から来た言葉で、同種療法などと訳される、代替医療の一種である。
3. イスラム圏では広く認められた医学で、専門の大学や病院も存在するが、元はギリシャ医学に基づいている。ラマダンは単なる宗教的慣習ではなく、断食療法の意味もあるそうだ。
4. 人間を有機的統合体ととらえ、身体、精神、環境を全体的な視点から健康を考える医学。元は全体を意味するギリシャ語に由来。英語の「健康」という言葉も「全体」が語源ということです。

a. ユナニ医学

b. ホメオパシー

c. ホリスティック医学

d. アーユルヴェーダ

患者・市民も考えよう

医療は公共財かビジネスか

⑩徳州会の成長に見る

近年、医療法人の世界にも大きな系列がいくつも出来ている。医療法人は一般企業に比べ経営という意味では当然ながら地味で、病院名と比べ法人名が前面に出ることは少ないが、そんな系列のひとつである徳州会という名前は何度も聞かれたことがあると思う。全国に65（別に海外1）の病院を持ち、診療所も52か所で、医師の数は1500人以上、病床数は日本全体のほぼ1%に当たるとか。介護施設などを含めると276の施設をもつ巨大大事業体であるで、職員の数も2万人を超えるというから恐らく収入規模は2000億円を超え、医療法人の規模としては世界第3位ということである。病院に関して言えば、1973年に第1号となる徳田病院（現松原徳州会病院）が出来、1975年に医療法人徳州会が設立されて以後、平均年2病院増加という速さでほぼ毎年のように徳州会グループの病院が生まれている。もちろん、まったく新しいところに病院を建設するという例もいくつかあるが、多くの場合は既存の病院を傘下に入れるということで大きくなったということである。

同会をゼロから築かれた理事長の徳田虎雄氏は72歳になられたようだが、「徳州会のモデルが世界標準になる日を夢見ている」そうで、志は大きい。同グループは氏の「命だけは平等だ」という信念の元に患者本位の医療を掲げ、専門性の高い病院群とともに医療に恵まれていない地域の医療にも尽力ということで僻地にも病院を建てたりするという感心な方針を打ち出されているが、経営者としても相当な人であることは容易に想像できる。同会ホームページに掲載されている同会のある理事の言葉の中にも、ドラッカーの書を引用して、利益を出すことに肯定的な反面、同会のもつNPO法人である国際的医療支援のTMATの活動をアピールしたり、また、運営面の質（数値指標）の重要性も強調しており、グループ全体として経営に対する意識も相当高いものと想像する。これだけの多くの病院とか医療、介護施設を傘下に収めるには大変なお金がかかるわけで、近年は、法律の改正等を背景に、診療報酬の証券化（注参照）とか債権の発行とかで調達するという株式会社並みの手法も取り入れている。要するに一般企業が成長する場合と同じような過程を経て成長していると言える。

このような巨大化を好ましく思わない人も当然おり、チェーンストアなどと揶揄する向きもあるし、徳州会と医師会とはずっと対立していたようだ。経営情報が公開されていない（筆者も勉強不足！）こともあって、詳細は不明だが、単純に考えても病院の系列化は、一般企業の合併同様、利点が多いと思う。少なくとも、グループ内の情報交換は個別の病院同士の情報交換よりずっと円滑に行くはずだし、人材育成・交流にも都合のよいことが多いし、情報システム等の統一もやさしくなる、また、非営利と安定経営・永続性の狭間にあつて本来技術屋たる院長の経営の負担を減らすことも出来る、いわば経営の合理化が図れるということだろう。その結果が患者に還元、反映されれば言うことなしではないか。2病院以上が1法人の下に活動するチェーン化率は、病院数で16%、病床数で22%とまだ小さいと言えないこともない。他にも、明理会、明芳会（ともに関東）などのビッグチェーンが出来ているが、長期的に見て、医療は公共財かビジネスかを考える上で参考になることもあろう。今後も注目して行きたい。

注) 診療報酬の証券化：通常、診療報酬の支払いは請求から1~1.5カ月かかるのでその間は売掛債権であるが、その債権を特定目的会社（SPC）に移して証券化し機関投資家に売る。キャッシュフローにより財務体質を強化する方法。

FAX : 03 - 5403 - 7724 健康医療市民会議宛て

参加申込書

送信日 月 日

ご氏名 :

第25回(4月)定例会<4月20日(火)日本財団会議室>に

A. 参加します B. 参加しません

ご連絡(同伴者、住所変更等)あればお知らせください。

統合医療に関する知識の問題の答 :

1=d 2=b 3=a 4=c

健康医療市民会議(KISK)

〒105-0013 東京都港区浜松町1-12-2 東武ハイライン大門203

TEL: 03(5403)7723 FAX: 03(5403)7724 E-Mail: Info@kisk.jp URL: http://www.kisk.jp